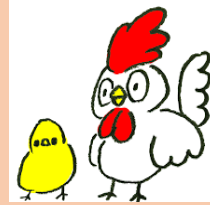


# JANNET



Promoting social participation,  
“Torinokosanai” for Persons with Disabilities

〈JANNET研究会〉

## とりのこさないセミナー 2020

共生社会のアフターコロナ

—障害課題 とりのこさないを今こそ—

開催日：2021年1月16日（土） 14時 — 15時30分

リモート開催（zoom） ※情報保障付き

新型コロナウイルスの感染拡大は、経済活動や東京パラリンピック競技大会の延期、国際協力事業や、障がいを持つ人々の医療・情報アクセスならびに雇用など、様々なところに影響を及ぼしています。JANNETは設立から今日まで27年にわたり、障害分野の国際協力を行う民間の市民社会組織（CSO, NGO）ネットワークとして、さまざまな活動を通じて「誰ひとり取り残さないインクルーシブ社会の実現」を目指してきました。感染症の影響を受けたとしても、これまでと変わらず障害課題と国際協力分野での、「とりのこさない」を実現する歩みを止めることはありません。われわれJANNETの決意として、このたびの研究会を企画しました。スポーツ、ビジネス、テクノロジーの視点から将来のアフターコロナにむけた共生社会の在り方を考えます。これまで社会的な理由でJANNET研究会に参加が難しかった多くの人、関心のある方他、皆様のご参加をお待ちしております。

### — プログラム —

- 14:00- 開会挨拶  
JANNET会長 清水直治氏
- 14:05- 講演（3名）  
国際活動とアダプテッドスポーツ(仮)  
世界のソーシャルファーム  
障がい者をとりのこさない外出支援の挑戦
- 14:50- パネル討論  
とりのこさないアフターコロナの展望
- 15:30- 閉会



### — JANNET って? —

1993年に設立され、アジア太平洋およびその他の地域の途上国に対して、障害分野の国際協力を行っている民間の社会市民団体(CSO,NGO)のネットワークです。

ホームページ： <http://www.normanet.ne.jp/~jannet/>

以下のサイトよりお申し込みください。

<https://kokucheese.com/event/index/606339/>

または、  
お名前・ご所属・メールアドレス・ご連絡先TEL・  
情報保障など必要事項を明記の上、  
下記事務局のFAX、メール、またはTELにて、  
お申込みください。

お申し込み、お問合せ：JANNET事務局  
電話03-5273-0601 FAX 03 - 5273 - 1523  
E-mail：kokusai@dinf.ne.jp

## 登壇者プロフィール

### ■初瀬 勇輔（視覚障害者柔道選手/株式会社スタイル・エッジMEDICAL代表取締役）

中央大学法学部在学中、緑内障により視覚障害となる。失意の底にあったが、高校時代に打ち込んだ柔道を再開し、全日本視覚障害者柔道大会9連覇、アジア大会2連覇に次いで、再開当初から目標にしていた北京パラリンピック出場を果たす。2011年には、障害者雇用に貢献するため、株式会社ユニバーサルスタイルを設立。2018年には、株式会社スタイル・エッジMEDICAL代表取締役にも就任し、企業の健康経営や個人の健康をサポートする活動にも尽力。また、東洋経済の次世代リーダー50人にも選ばれる。現在は、東京パラリンピックへの出場を目指す傍ら、日本パラリンピアンズ協会理事など15以上の団体の理事も務めている。  
著書「いま、絶望している君たちへ」（日本経済新聞出版社）出版。

### ■寺島 彰（元浦和大学総合福祉学部学部長 教授/公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 参与）

大学で障害児教育を専攻。身体障害者更生施設のソーシャルワーカーとして16年間勤務した後、厚生省（現厚生労働省）障害福祉専門官、国立身体障害者リハビリテーションセンター国際協力専門官、同センター研究所障害福祉研究部社会適応システム開発室長、同障害福祉研究部長、浦和大学総合福祉学部教授・学部長等を歴任。  
現在は、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会参与。  
日本社会福祉学会、日本介護福祉学会、日本経済政策学会、日本地域政策学会会員。  
日本障害フォーラム国際委員長、障害者放送協議会放送通信バリアフリー委員会委員長等を務める。社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員。

### ■川添 高志（ケアプロ株式会社 代表取締役社長）

2005年3月 慶應義塾大学看護医療学部卒業。看護師・保健師。経営コンサルティング会社、東京大学病院を経て、2007年12月起業。ワンコイン健診（現セルフ健康チェック）や訪問看護、外出支援のドコケア、サッカーイベントのコロナ対策や救護運営のサッカーナースを展開。